

民主党政権が安威川ダム本体工事着工承認を強行！

国交大臣諮問会議の関係者傍聴要求を百人の職員が阻止

ダム事業推進の手段と化したダム検証

民主党に政権交代した直後に、当時の前原国交相の下で、「コンクリートから人へ」「ダムは原則造らない」「ハツ場ダム建設中止」をスローガンに始まった全国のダムの検証。その後の「ダム検証有識者会議委員の選任や会議の非公開化などを通じて、政権公約は他の項目と同様、完全に踏みにじられました。そして今や、完全にダム検証はダム事業推進の手段と化しています。

今回の国交省が行う検証対象ダムは国と水資源機構施行が30カ所、都道府県施行が安威川をはじめ、53カ所、合計83ダムとなっています。しかし国交省や「有識者会議」の判断で、「中止」を決めたケースは一つもありません。「有識者会議」中川座長も「ダム検証の所定の手続きを踏んでいるかどうかチェックするだけで、必要性の可否は審議しない」と言明しています。

4月26日開催の国交省の「今後の治水のあり方に関する有識者会議」では、石木ダム（長崎）、安威川ダム（大阪）、内ヶ谷ダム（岐阜）、タイ原ダム（沖縄）について審議され、いずれも事業者の府県の方針がまともな審議もなしで了承とされました。

「市民の会」は国交省に「ダム計画中止」

「堤防強化による治水対策」を求めて4千人署名を提出

「市民の会」は昨年10月の大阪府橋下知事（当時）の安威川ダム「事業継続」との国への方針提出を受け、この間寄せられた「ダム検証」に当たって、流域住民の声に沿って行うよう求めるとともに、「安威川治水署名」約4千人分を国交省に提出しています。

住民不在のダム検証に全国の怒り頂点に

4. 26 東京・霞ヶ関緊急行動に「市民の会」も参加

この会議は、前回の2月22日、ダム予定地の住民や流域住民らは何十年も反対し続けている長崎県石木ダムや大阪安威川ダム等の審議を行おうとしたのですが、長崎をはじめ全国から霞ヶ関に駆けつけた地権者や支援者の傍聴を認めずに流会しました。

4月26日は再び同じ4ダムを審議する会議が開かれたのですが、国交省は地元住民や市民らの傍聴を拒否するために、百名を超える職員を動員しました。科学的検証に耐えるレベルに達していないがゆえの措置とはいえ、国交省の「治水のあり方に関する有識者会議」は、会議の持ち方そのものが常軌を逸しています。

この社会は情報があふれているように、本当に大切なことは殆どマスコミでは報道されない中で、の暴挙でした。「市民の会」は畑中孝雄事務局員を派遣し、民主党政権に抗議する行動を全国の仲間と共に、時間ぎりぎりまで奮闘しました。

